

メンバー： 斎藤 芳明, 梶本 和博, 石川 亘, 葛西 孝弘, 野沢 友希, 田村 洋

■活動概要

本T22研究会は、2014年の派生開発カンファレンスで開催されたワークショップ「XDDPはこうすれば定着失敗する」での議論を起点に、さらに研究を深めたいと希望する有志を中心に発足した。実際にあった失敗事例をもとに、それら失敗事例が発生しないようにするにはどうしたら良いのか、その対応策を立案するのが本研究会の目的である。

■なぜ失敗から入るのか？

失敗事例には多くの人々が共有できる「共感」（そうそう！あるある！）が存在し、その共感からはより本質的かつ建設的な対応策を引き出し易い。本研究会では、失敗事例にこそ多くの教訓を含んでいるという観点に立ち、先人の失敗を分析し、これを繰り返さない対策に研究の焦点を当てることにした。

■本研究会で扱った失敗事例について

取り上げた失敗事例は、上記2014年のワークショップで議論対象としたものであり、これらはいずれもXDDP提唱者である清水吉男氏のコンサルタント経験から抽出された事例である。

■これまでの活動

本研究会で作成してきた「病気」（失敗事例の要因）への処方箋については、派生開発カンファレンス2016でポスター発表、2017で登壇発表と、進捗に基づいて段階的に報告したものである。

★本研究会が採用した分析上のユニークポイント

- ① 失敗事例を整理・分類するうえで、失敗学の「原因まんだら」を利用した。
- ② 全体のまとめ方では、Capers Jonesの「ソフトウェア病理学」をヒントにした。



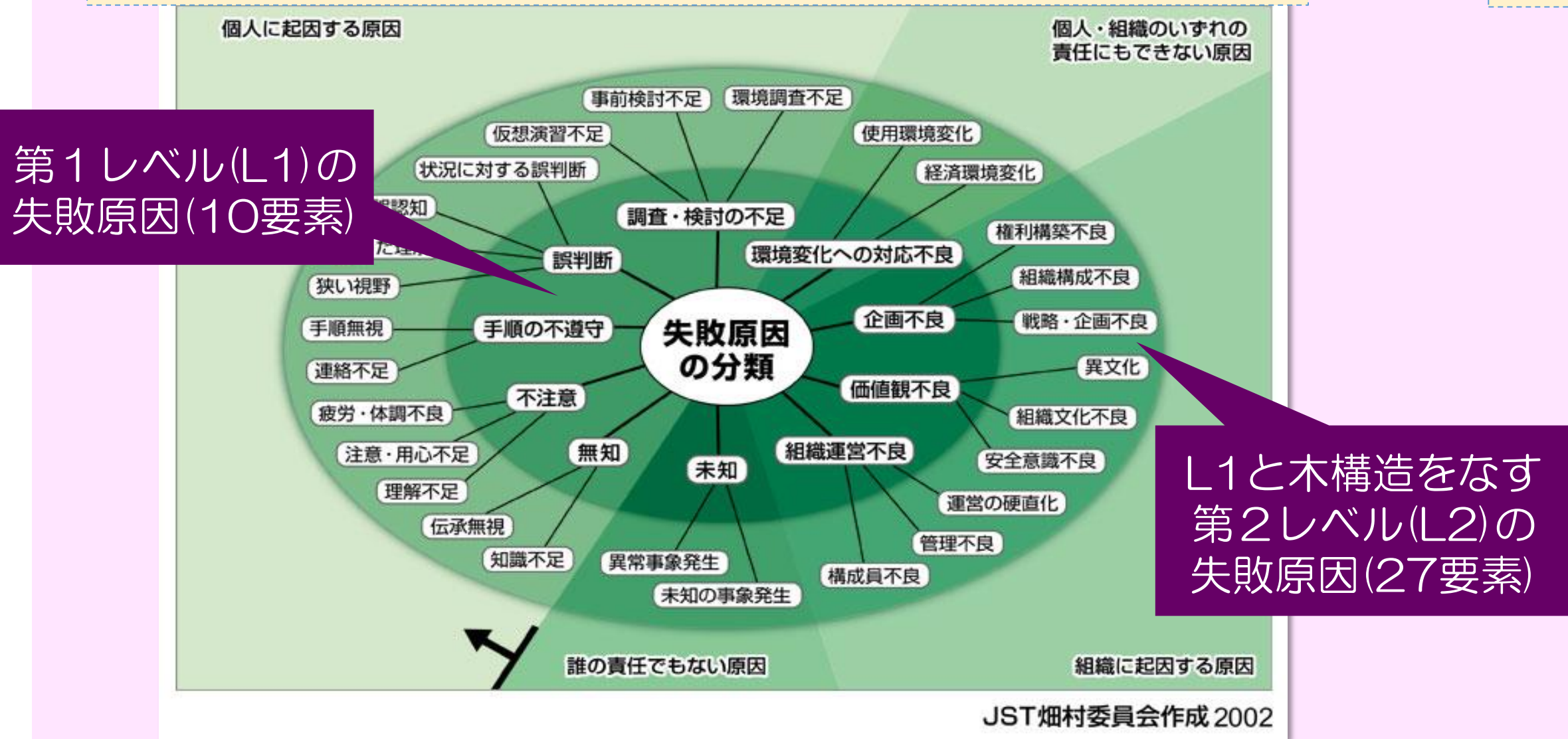
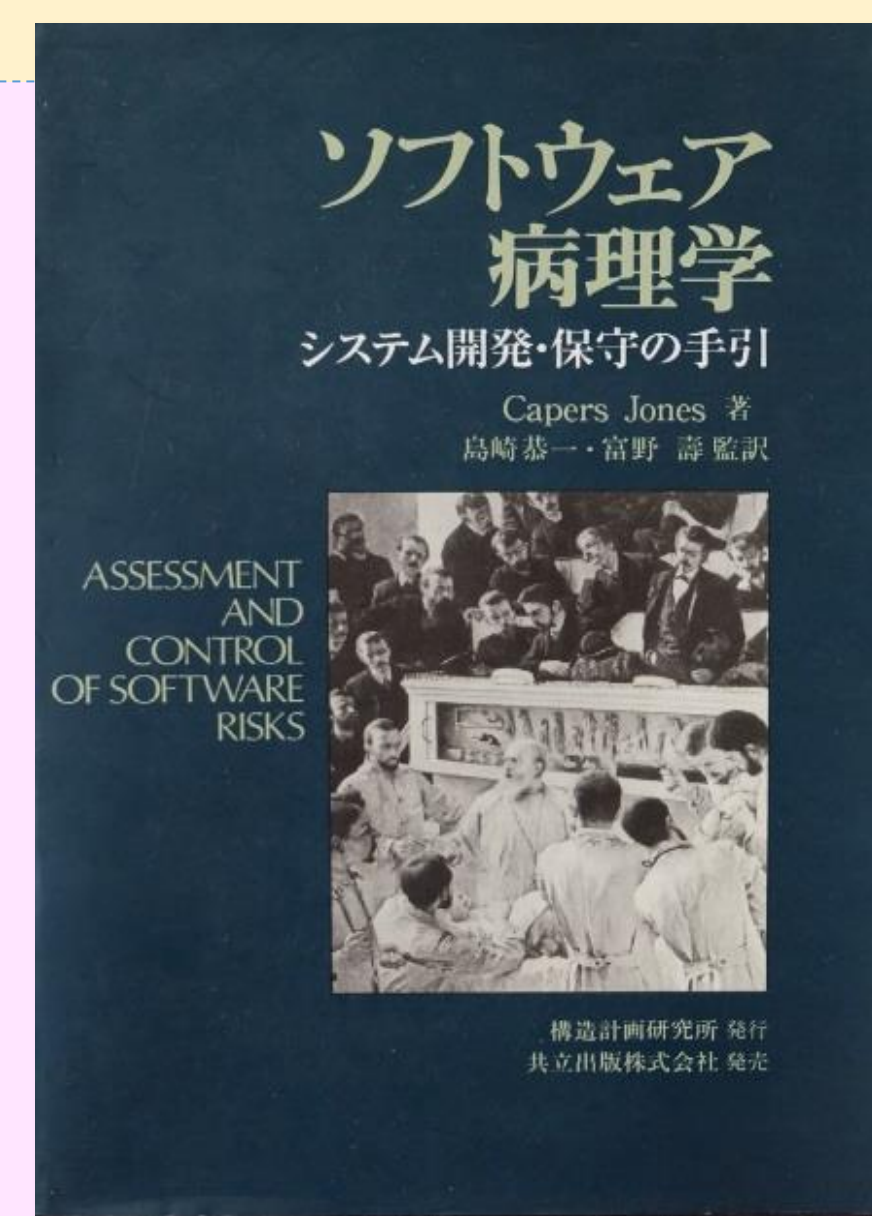
① 原因まんだら（畑村洋太郎氏 失敗学）

失敗学の提唱者である畑村洋太郎氏は、過去の失敗から得られる知識を正しく伝達するためには“失敗知識の構造化”が重要であるとし、失敗原因を構造的に表現した「原因まんだら」を提唱している。

② ソフトウェア病理学

Capers Jones 著・島崎 恭一・富野 壽監訳

医学書の形式で書かれたソフトウェア工学の学際書。プロジェクトの失敗やその原因について、症状別に処方箋が解説されている。

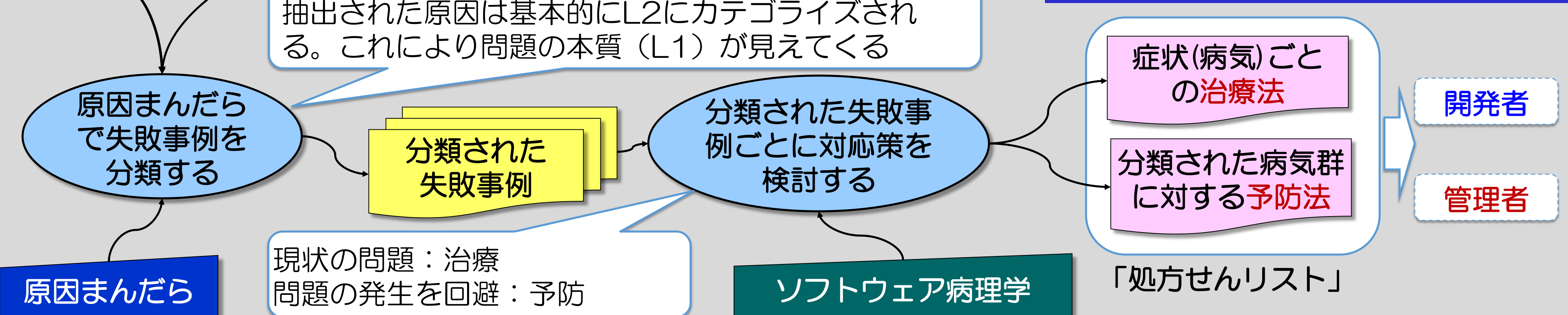


この2つの考え方を取り入れた分析プロセスを決定

一般的な分析プロセス



本研究会で実施した分析プロセス

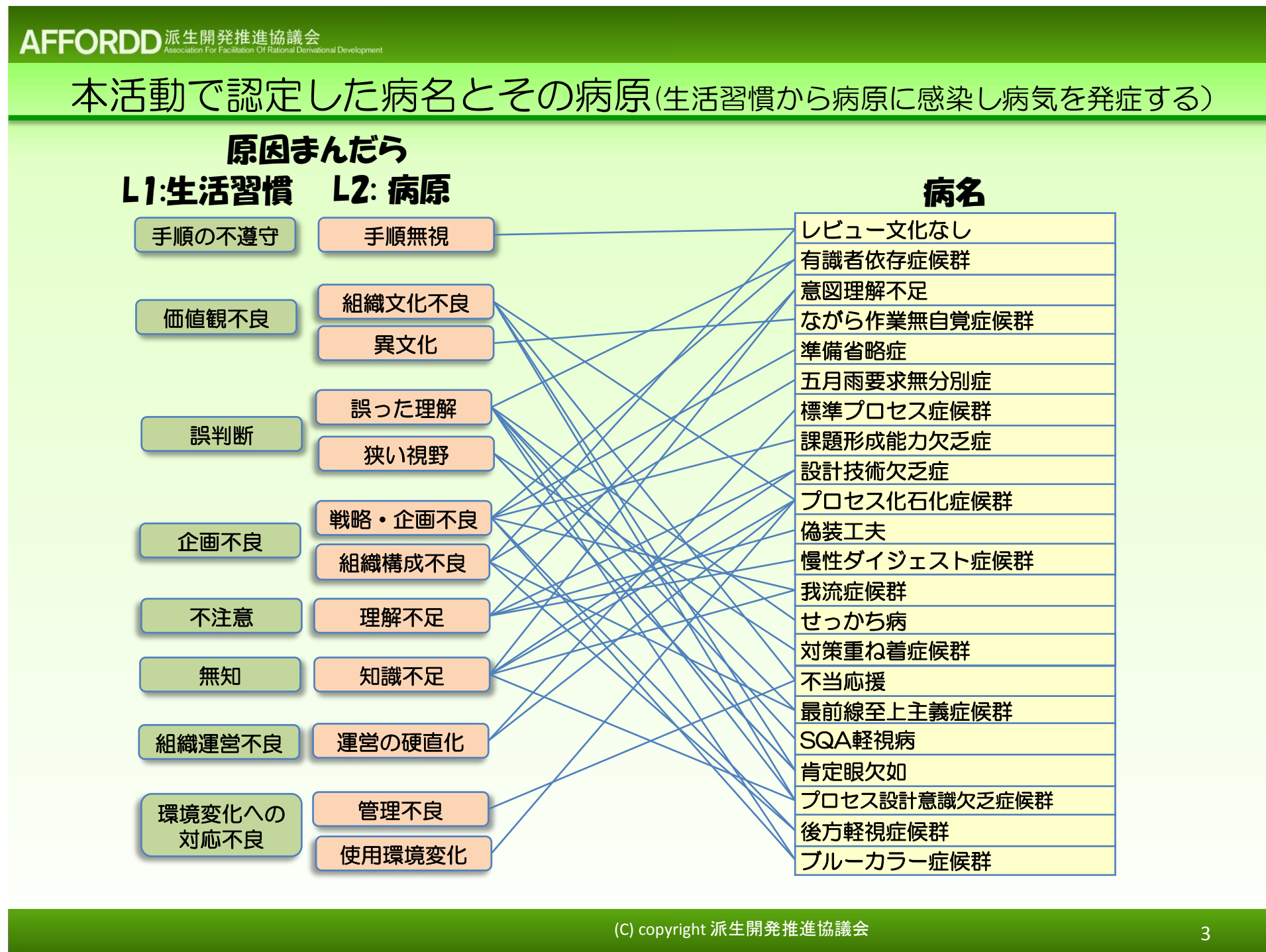


【ポスターセッションの目的】

復習



派生開発カンファレンスカンファレンス2017で「**22個の病気**」と「**原因となる病原 (L2)**」、さらに病原の原因となる「**生活習慣 (L1)**」を紹介した。



チェック

作成した小冊子【失敗事例に対する病理学的処方箋（第一版）】を主要な要素である「**症状チェッカー**」「**治療の処方せん**」「**予防の処方せん**」をキーワードにして紹介する。

【症状チェッカー】



自分や組織がどのような**病気にかかっている**のか、あるいは、これからどのような**病気にかかる可能性がある**のか、多くの病気の中から自分で判断するのは難しい。「家庭の医学」等の書籍のように**症状から自分で診断できる**ようにならないものか？



自分や組織で**発生している症状**や**生活習慣 (クセ、やり方)**から病気を判断し、**適切な処方せん**にたどり着けることを目的とした**症状チェッカー**を作成した。

【症状チェッカーの使い方】

「症状チェッカー」は切り口が違う2種類を考えた。

- ①**症状からのアプローチ**
- ②**組織文化からのアプローチ**

重要!



「**症状からのアプローチ**」は**発症している症状**から**処方せん**を導きだし、「**組織文化からのアプローチ**」は**自分または組織の生活習慣 (クセ、やり方)**から**処方せん**を導きだすものである。



① チェッカーを確認、または、記入して病気を絞り込む。



② 絞り込まれた症状の詳細を確認する。



③ 適切な「治療」または「予防」の「処方せん」を見つける。

【治療の処方せん、予防の処方せん】

「処方せん」は「治療の処方せん」と「予防の処方せん」の2種類がある。

【治療の処方せん】

すでに発症した病気を解決することを目的としており、病気に対して即効性があると思われる治療方法を記載している。

【予防の処方せん】

生活習慣を改善し見直すことを目的としており、病気にならないために普段から注意すべきことや気を付けることを記載している。



【治療の処方せんの活用方法】

病名	病名
発症者	発症者
症状	発症原因
治療法	おまな解決策が記載されている
合併症	併発する可能性がある病気



「症状チェッカー」と病気の「症状」を確認し、病気を発症していることが分かった。改善のためには「発症原因」を確認して「治療法」を実践する。



健康を取り戻して・・・

XDDP導入成功により効率アップ

【予防の処方せんの活用方法】

生活習慣病	原因まんだらで紐づけた生活習慣
発症者	発症者
病名	有識者症候群 生活習慣を放置しておくことで、発症する可能性のある病気
予防法	病気を予防するための生活習慣改善方法

「症状チェッカー」や「病名」からどのような生活習慣病の予備軍なのか気付いた。予防の処方せんの「病名」を確認したら、ほかにもいろいろな病気を発症する可能性がある。「予防法」を実践する。



生活習慣病に気付いた

注意

病気を予防して健康を維持

XDDP導入成功により効率アップ